

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473600540
法人名	社会福祉法人 豊笑会
事業所名	弥生台グループホーム
訪問調査日	平成19年9月28日
評価確定日	平成19年10月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月31日

【評価実施概要】

事業所番号	1473600540		
法人名	社会福祉法人 豊笑会		
事業所名	弥生台グループホーム		
所在地	245-0008 横浜市泉区弥生台55-62 (電話)045-813-0071		
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成19年9月28日	評価確定日	平成19年10月31日

【情報提供票より】(平成19年3月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	3月	1日
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	21人	常勤	11人	非常勤 10人, 常勤換算 13.4人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1階～	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	8,000円	その他の経費(月額)	45,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(268,440円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(3月31日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名	
要介護1	1名	要介護2	7名			
要介護3	5名	要介護4	5名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	83.3歳	最低	73歳	最高	93歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	日立戸塚総合病院、医療法人敬生会ともろークリニック
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人豊笑会の理事長はこの弥生台グループホームだけのために法人を設立した。ホーム開所後、中区にデイサービスセンター(ひので)、栄区に特別養護老人ホーム(ライフコートさかえ)、戸塚区に特別養護老人ホーム(ライフヒルズ舞岡苑)を展開している。このために法人を作ったこともありグループホームに対する思い入れは深い。距離的な面があってこれらの施設の有機的利用は少ないが特養やデイのノウハウの活用、車両の利用などでメリットがあり、施設のノウハウがある点でご家族の精神的安心といった面での効果も大きい。ロケーションは横浜市の北部、相鉄線弥生台駅から10分弱の住宅地外れにある。駅からも商店街からも近い位置にありながら周囲は閑静で、駅よりに介護老人保健施設(協力施設ではあるが経営は全く別)があり、庭側には畑が広がっている。交通量は少なく散歩などに適している。設立後5年弱の時間と努力、色々々な人達のご協力で自治会や地域との関係は良好である。このホームの最大の良さは食事、行事、園芸、ファミリーの委員会活動である。職員が自主的に計画し、改善する姿は利用者さんへのケアの質の向上以上に職員のレベルアップへの寄与が更に大きい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回、特に指摘事項は無かったが、4月の介護保険法改訂により地域密着型サービスに組み込まれた点を踏まえて、元々地域に根付いての発足であったが、意識した形で地域とのネットワーク作りに取り組んだ。運営推進会議の活用は云うに及ばず、ケアマネジャーの会であるケアマネフロンティア、あすなろ保育園との定期交流、弥生台自治会活動への参画、グループホーム連絡会への参画など組織的密着の推進を図った。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価についてはホーム内の自己評価を外部評価を受ける以前から実施して来ており、その自己評価を日頃の自分たちのケアを振り返る機会として取り組んできた。外部評価はその延長線上にある位置付けであり職員は充分評価の意義を理解し、今回の自己評価はその集積として作成されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は泉区の方式で8月29日に実施した。泉区の方式とは地域包括支援センターのカバーエリア毎に総合会議とグループホーム別の個別会議を行うもので、ここは恒春の郷が地域包括支援センターであり、圏内の5つのグループホームで実施した。個別の運営推進会議のメンバーは町内会長、地域代表(中川地区でボランティア活動をされている方)、ご家族3名、泉区の方、それにオブザーバーとして地域包括支援センターの方と新橋ホームの方で行った。第1回なので会議の説明、グループホームとは、ホームの紹介、町内会との今後の取り組みなどを説明し話し合った。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族との関係も良好である。情報については来訪時やお電話でお知らせする他、ホームの新聞「ほほえみ」や個人別のお便りでお知らせしている。個人別のお便りでは行事報告、医療報告も必ずお知らせするようにしている。意見を云い易い場としてイベントなどに併せて全家族に来て頂き家族会を開くようにしている。ファミリー委員会活動ではユニット長を中心にご家族との連携のパイプ役として有効に機能している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>市が委託する介護予防講座など何回も受託しており、泉区の高齢者ホームとしてケアマネフロンティアや定例会、グループホーム連絡会では指導的な立場を期待されている。利用者さんの安定もあって外部からの訪問は多く、快く受け入れている。ボランティアの訪問も多く、ハーモニカ、大正琴など多岐に亘っている。イベントも研究会中心に展開し年間行事が多い。あすなろ保育園との交流は定期的に行われ喜ばれている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立後5年弱の時間と努力、色々な人達のご協力での理念は浸透し、自治会や地域との関係は良好である。弥生台自治会に加入し、盆踊り大会や運動会に参加し、地域の皆様と一緒に楽しんでいる。また近くの保育園との交流を月2回実施しており、子供達と共に過ごす機会を作っている。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ご利用者の皆様が、安心・安全・安定した毎日を過ごされるよう、理念に基づき、日々ケアの提供を行っている。職員とは常に理念を念頭に話し合っている。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	設立後5年弱の時間と努力、色々な人達のご協力での理念は浸透し、自治会や地域との関係は良好である。弥生台自治会に加入し、盆踊り大会や運動会に参加し、地域の皆様と一緒に楽しんでいる。また近くの保育園との交流を月2回実施しており、子供達と共に過ごす機会を作っている。		今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価についてはホーム内の自己評価を外部評価を受ける以前から実施して来ており、その自己評価を日頃の自分たちのケアを振り返る機会として取り組んできた。外部評価はその延長線上にある位置付けであり職員は充分評価の意義を理解し、今回の自己評価はその集積として作成されている。		今後も継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は泉区の方式で8月29日に実施した。泉区の方式とは地域包括支援センターのカバーエリア毎に総合会議とグループホーム別の個別会議を行うもので、ここは恒春の郷が地域包括支援センターであり、圏内の5つのグループホームで実施した。第1回なので会議の説明、グループホームとは、ホームの紹介、町内会との今後の取り組みなどを説明し話し合った。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	泉区サービス課の方々や地域福祉職員の方々と勉強会やボランティア活動、認知症サポーター講座などを行っている。		今後も継続して接触して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ご家族との関係も良好である。情報については来訪時やお電話でお知らせする他、ホームの新聞「ほほえみ」や個人別のお便りでお知らせしている。個人別のお便りでは行事報告、医療報告も必ずお知らせするようにしている。意見を云い易い場としてイベントなどに併せて全家族に来て頂き家族会を開くようにしている。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員や管理者に意見を言い易い雰囲気作りに務めている。また、苦情相談窓口についても、契約時にご説明している。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所以来、管理者の交代はなく、職員の異動(ユニット間)も1名のみで、ご利用者のユニット移動も行っていない。チームケアが定着し、委員会活動による職員間の自主性やコミュニケーションも良く利用者への不安は全く感じられない。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士やケアマネジャーなどを目指し、向学心を持って仕事出来るようサポートしている。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	泉区ケアマネジャーの勉強会に参加したり、横浜市グループホーム連絡会に加入し、グループホーム間での勉強会や現場研修に参加し、意識を高めている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご入居されるまでに、可能であれば何回か当グループホームに遊びに来ていただき、ホームの雰囲気を感じ取っていただいている。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒にお掃除したり、ご飯を作ったり、畑の野菜作りをしたり、全ての日常生活を共にする事で支えあう関係を築いている。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からのアセスメントやご家族からの聞き取り、或いは常日頃ご本人からふと洩れる言葉から、ご本人の心の内、思いや願いをくみ取り、支援するように務めている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人の思いや願い、ご家族の希望などを聞きとり、全職員がカンファレンスに参加し、意見やアイデアを出し合っている。センター方式を基本とし、ケアプラン中心のケアが定着している。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの期間に応じて見直しをすると共に、特別な変化が起きた場合は、その都度状況に応じて見直しを行っている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	中区にデイサービスセンター(ひので)、栄区に特別養護老人ホーム(ライフコートさかえ)、戸塚区に特別養護老人ホーム(ライフヒルズ舞岡苑)があり、距離的な面があつてこれらの施設の有機的利用は少ないが特養やデイのノウハウの活用、車両の利用などでメリットがあり、施設のノウハウがある点でご家族の精神的安心といった面での効果も大きい。施設見学を希望される方にはその都度対応している。		今後も継続して接触して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望されるかかりつけ医を大切に、受診される際には日頃のバイタルの記録や身体等の状況等をお伝えしている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご入居時には、ご家族や可能であればご本人とも終末期についての話し合いを充分に行い、医療関係者や職員とも何度も検討を重ねている。		今後も継続して実施して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩としての敬意を常に持ち、傾聴を心がけ、言葉かけや話題にも充分配慮している。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のご利用者の身体状況や気分に合わせて、柔軟に対応している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好みや苦手のものなどを把握したり、食べ易い形状や味の工夫をしている。また調理や後片付けなども一緒に行っている。食事委員会活動でメニューなど職員が利用者の好みを聞きながら検討している。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	対人関係などに配慮した順番や、希望する方には一人対応で入浴を行っている。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	動物好きの方、お花の好きな方、お掃除やお料理の好きな方、各々楽しみごとが活かせるようサポートしている。行事、園芸などの委員会活動により職員が利用者の出来ることを把握しながら検討している。		今後も継続して接触して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の他に、毎日交替で犬の散歩に行っていたり、ホーム中庭や裏庭には好きな時に入出入りしていただいている。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニット間の施錠は極力行わないよう務め、中庭や裏庭へは各自自由に出入り出来るようにしている。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回行っている防災訓練では、昼間の事故発生や夜間の火災発生などに対する訓練を行っている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご飯の量は、各人に合わせて必要量を測り、器に工夫しながら盛り付けたり、場合によっては時間をずらして対応するなどしている。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に花が飾られ、館内にはご利用者の皆さまが作られた作品や行事の写真などが数多く飾られている。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具等の他にも、写真や家庭で飾っていたものを使っている。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的にかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明


評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	弥生台グループホーム
所在地 (県・市町村名)	245-0008 横浜市泉区弥生台55-62
記入者名 (管理者)	川原 智子
記入日	平成 19 年 9 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	弥生台自治会に加入させていただき、盆踊り大会や運動会に参加し、地域の皆様と一緒に楽しんでいます。また近くの保育園との交流を月2回させていただき、子供達と共に過ごす機会を作っている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ご利用者の皆様が、安心・安全・安定した毎日を過ごされるよう、理念に基づき、日々ケアの提供を行っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族にはその都度お話させていただいています。また、パンフレットに載せたり、玄関のわかり易い場所に掲示している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	犬の散歩や外出時には挨拶を交わし、顔見知りの方が増えてきています。また、近所の方がボランティアに時々来てくださったりもしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	弥生台自治会に加入させていただき、地域の行事に参加しています。近くの保育園との交流も月2回行っている。	
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々や介護者の集いの方々などから、時々見学や福祉のお話の依頼をされ、引き受けています。また、認知症サポーター養成講座の開催を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価を年一回必ず実施し、日頃の自分達のケアを振り返る機会として取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度から運営推進会議を開催し、地域の方々や行政職員、地域包括職員、それにご家族の皆様と共に良いサービスを行えるよう意見交換をしている。	○	第一回目を8月29日に開催いたしました。地域の方々とお互いに協力しあっていければと思っています。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	泉区サービス課の方々や地域福祉職員の方々と勉強会やボランティア活動、認知症サポーター講座などを共に行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域保健福祉事業の委員として活動させていただいたり、成年後見制度についての講習を受けご家族からのご相談にも、その都度お受けしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連についての研修会に参加したり、職員会議の場で、常にそういったことが起きないように話し合いの機会をつくっている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約文書にわかり易く示し、契約時や退去される際には十分な説明を行い、同意を得ている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者が、不満や不安、愚痴などを職員や管理者に言えるような雰囲気や機会を作れるようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の訪問時や電話連絡の他、お便りを発行したり、行事報告書や受診報告書などを作成している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員や管理者に意見を言い易い雰囲気作りに務めている。また、苦情相談窓口についても、契約時にご説明している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見を聞き、それらが可能な限りとり入れられるよう、話し合いの機会を作っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者の急変時の職員対応や職員の体調不良時の交替などについては、常に調整に務めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所以来、管理者の交代はなく、職員の異動(ユニット間)も1名のみで、ご利用者のユニット移動も行っていない。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士やケアマネジャーなどを目指し、向学心を持って仕事出来るようサポートしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	泉区ケアマネジャーの勉強会に参加したり、横浜市グループホーム連絡会に加入し、グループホーム間での勉強会や現場研修に参加し、意識を高めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年に2回納涼祭や忘年会を行い、日頃の労をねぎらっている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人一人の努力や実績、また非常勤職員さんの勤務状況を把握し、労をねぎらっている。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご入居に至るまでには、必ずご本人とお会いし、直接ご本人からお話をお伺いするようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学、聞き取り、ご本人やご家族からのアセスメントなど、ご入居されるまでに何度もお話を伺う機会を作っている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の現状をよく伺ったうえで、他のサービス利用と一緒に考えてみたり、対応の相談に乗ったりしている。		

26	<p>○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になんげに馴染めるよう家族等と相談しながら工ましている</p>	<p>ご入居されるまでに、可能であれば何回か当グループホームに遊びに来ていただき、ホームの雰囲気を感じ取っていただいている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一緒にお掃除したり、ご飯を作ったり、畑の野菜作りをしたり、全ての日常生活を共にする事で支えあう関係を築いている。</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族の今までのご苦勞、親を思う気持ち、戸惑いなどを理解したうえで、一緒にご本人を支えあっている。</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>家族関係や親類との関係が上手くいくよう、理解したうえでサポートしていけるように務めている。</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴れ親しんできた方々と、時には電話をかけたたりお便りを出せるよう支援している。</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>誤解されることの無いよう、ぶつかり合ったり、孤立されることの無いよう、職員が間に入り、必要とあれば個別ケアを適時行っている。</p>		
項目		<p>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</p>	(○印)	<p>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</p>
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>契約が終了しても、ご本人やご家族が必要とされる場合には、情報を提供したり、ご相談に乗る等をしている。</p>		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からのアセスメントやご家族からの聞き取り、或いは常日頃ご本人からふと洩れる言葉から、ご本人の心の内、思いや願いをくみ取り、支援するように務めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居される際、事前に分かる事柄を少しでも収集し、今までの暮らし振りや環境などが大きく変化し、困惑される事の無いよう支援している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	お一人お一人の心身の観察やバイタルチェックをすると共に、心の変化を見落とさぬよう職員全員で総合的に判断している。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人の思いや願い、ご家族の希望などを聞きとり、全職員がカンファレンスに参加し、意見やアイデアを出し合っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの期間に応じて見直しをすると共に、特別な変化が起きた場合は、その都度状況に応じて見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日各個人の生活状況から、バイタル、排泄、睡眠、食事量、水分摂取量などを記録に残し、ケアプラン見直しに役立たせている。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人の車両を利用したり、施設見学を希望される方にはその都度対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内会行事等では、町内会長さんや民生委員の方々のご協力をいただいたり、毎週ボランティアさんには来訪していただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーや他職種のサービス事業者の方々とも連携を図っている。また共に勉強会を開くなどしてより良いサービスに繋がるよう務めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター職員さんとも毎月勉強会を開いたり、運営推進会議への出席もお願いしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望されるかかりつけ医を大切に、受診される際には日頃のバイタルの記録や身体の状態等をお伝えしている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣の専門医との連携が取れており、精神状態が不安定になられた時や認知症が急激に進行された時など、必要に応じて受診している。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関の看護師さんが相談に乗ってくださったり、薬については薬剤師さんが相談に乗ってくださっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、入院中、退院時には、ご家族と共に医師との話し合いの場に参加させていただき、一緒にご本人のためのお話し合いをさせていただいている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご入居時には、ご家族や可能であればご本人とも終末期についての話し合いを充分に行い、医療関係者や職員とも何度も検討を重ねている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	身体機能の低下や認知度の低下、或いは病状の悪化など、その都度ご家族や医療関係者や職員と共に十分検討を行い、ホームとして対応できる限りケアを行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所へ移られる時には、十分な情報やサマリーを相手先にお伝えし、ご本人が安心して過ごされるよう支援している。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩としての敬意を常に持ち、傾聴を心がけ、言葉かけや話題にも充分配慮している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個別対応や傾聴を心掛け、各々のご利用者のADLや思い、願いを十分理解したうえで支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のご利用者の身体状況や気分に合わせて、柔軟に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望されるご利用者には、訪問理美容を利用させていただいたり、行きつけのお店に行ってもらったりしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好みや苦手のものなどを把握したり、食べ易い形状や味の工夫をしている。また調理や後片付けなども一緒に行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人の好む飲物を提供したり、個別におやつなども状況に応じ、楽しめるようにしている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各個人の排泄パターンをしっかりと掴み、少しでも失敗を減らし、快適な生活が送れるよう支援している。		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	対人関係などに配慮した順番や、希望する方には一人対応で入浴を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠チェック表を毎日記録して、各個人の睡眠リズムやパターンを把握し快く眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	動物好きの方、お花の好きな方、お掃除やお料理の好きな方、各々楽しみごとが活かせるようサポートしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買物の時には、お一人お一人自分でお金を持っていただいて、各々が好みのものが買えるようサポートしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の他に、毎日交替で犬の散歩に行っていたり、ホーム中庭や裏庭には好きな時に出入りしていただいている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と一緒に墓参りに行かれたり、故郷への旅行、温泉旅行などに出掛けられる機会を作れるよう支援している。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される時には、お電話をかけたり、ご家族やご友人にお便りを書かれる時には、それらを支援している。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や友人、知人の方々が何時でも気軽に来訪できるよう配慮し、来られた時には飲物等を提供して対応している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケアカンファレンスや職員会議などの場で、常に当グループホームは身体拘束を行わないことを徹底して話し合っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニット間の施錠は極力行わないよう務め、中庭や裏庭へは各自自由に出入り出来るようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご利用者全ての方が、常に何処にいて、何をされているか気を配り、調理中や記録記入時でも常に見えるように気をつけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者の希望やその方の状態に合わせ、針や鋏なども所有されたい方には注意と配慮をしながら対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットの記録や対応策の検討をしたり、年1回の防災訓練を行い、事故防止にあたっている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時の対応や急変時の救急対応など、マニュアルを作り、職員会議などで話し合いをしたり、対応の訓練を行っている。		
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回行っている防災訓練では、昼間の事故発生や夜間の火災発生などに対する訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時は勿論、来訪時にはADLについてのお話や、起こり得るリスクについてのお話をさせていただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや身体観察などを入念に行い、1日3回の申し送り時にキッチンと伝達し、記録として残している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人のお薬については、全職員理解しており、変更などがあった場合にはきちんと報告や連絡している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	寒天ゼリーを毎食事にご用意したり、必要な方には水分摂取量を記録したり、便秘気味の方にはプルーンをお出ししたりしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは、毎食後全てのご入居の方々に行っており、介助の必要な方には職員がついて支援している。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご飯の量は、各人に合わせて必要量を測り、器に工夫しながら盛り付けたり、場合によっては時間をずらして対応するなどしている。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各々の感染症についてのマニュアルがあり、職員会議などの場で時々勉強会を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、布巾の消毒やまな板、包丁、台所用品などの消毒清潔に気を配り、手洗いを徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲にはたくさんのお花を植えたり、玄関には緑の鉢植えを飾り、親しみやすく入りやすい雰囲気を作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に花が飾られ、館内にはご利用者の皆さまが作られた作品や行事の写真などが数多く飾られている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の他にもリビングがあり、ゆったりとしたスペースになっている。また庭にはベンチが置いてあり、くつろげるようになっている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具等の他にも、写真や家庭で飾っていたものを使っている。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>脱臭効果のあるオゾンの使用や、冷暖房での温度調整には常に気を配り、こまめに調整している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部には廊下の手摺り、お風呂場やトイレの手摺りなど、少しでも長く自立して生活できるようサポートする体制がある。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>各々出来ること、出来ないこと、支えがあれば出来ることを常に皆で考え、自立して生活できるようなケアを提供している。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ホームの中庭や裏庭などに花を植えたり、野菜を作ったり、また犬やアヒルを飼うなどして、屋外での活動も楽しんでいたっている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

食事研究会（献立作成、カロリー・塩分計算、行事食の検討）、行事研究会（日々のレクリエーション、季節行事や外出行事、ご家族ご招待行事等の検討と企画）、園芸研究会（花壇のお花や畑に植える野菜の苗等の研究）、ボランティア・ご家族研究会（ボランティアさんとの連絡調整、ご家族への新聞発行等）の四つの研究会のいずれかに、常勤・非常勤全ての職員が参加し、みんなでより良いホーム作りを目指しています。また、ケアプラン作成にあたっては、全職員がセンター方式を勉強し、全員でケアカンファレンスを行い、情報を共有し、意見を出し合って作っています。そのケアプランをもとに、ご利用者お一人お一人、生き生きと、その人らしく毎日を過ごせるようお手伝いさせていただいています。